

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
15107001	既知および未知の細胞間シグナル分子による植物形態形成の調節	柿本 辰男 (大阪大学・大学院理学研究科・教授)	A+
<p>植物ホルモンのサイトカイニンは、植物の生長や形態形成に関わる重要な役割を果たしている。本研究は、サイトカイニンの合成とシグナルの受容、伝達に関わる制御因子の同定と機能解析に関して大きな成果を上げた。特に、3種のサイトカイニン受容体の重要な機能の同定、さらに下流のリン酸リレーの抑制因子が導管形成に重要な役割を持つことを明らかにしたことは、新規な成果である。サイトカイニンの合成に関しても、主要なサイトカイニンの2種の合成系を明らかにした。これらはサイトカイニンの制御ネットワークの解明、サイトカイニンの新規機能の発見に大きな貢献する大きな成果である。さらに、新たな分泌性ペプチドのシグナル分子をゲノム情報から抽出して、逆遺伝学的な手法で形態形成に影響を与える遺伝子を見いだして、葉の気孔の形成に関わる制御因子であることを発見した。これは、植物におけるペプチド性のシグナル分子の研究に大きく貢献するものである。その結果、期待以上の成果が得られ、レベルの高い学術雑誌に報告された。いずれも質の高い論文である。以上により、基盤研究（S）としての成果は高く評価でき、今後、植物ホルモン研究分野で研究代表者のリーダーシップがさらに発揮される形で研究が推進されることを期待する。</p>			